

京焼海外文献アーカイブ

京焼に向けられた海外からのまなざし 近現代の欧米における京焼文献のアーカイブ創成研究

平成28年度 活動報告

今年度の活動は8月下旬にアメリカでの調査・資料撮影を行った。日本陶磁器の収集で知られるエドワード・シルベスター・モース(Edward Sylvester Morse: 1838-1925)は明治期に日本陶磁器をコレクションし、その大半がボストン美術館とマサチューセッツ州セーラムのピーボディ・エセックス美術館に現存していることが知られている。しかし、ボストン美術館だけで5000点にも及ぶコレクションは膨大で、仁清や乾山といった有名陶工の作品以外はしっかりとした調査が行われてこなかった。そこで、モース・コレクション所蔵の京焼作品の全貌を把握するために、8月22日から25日の4日間をかけて192点の調査と高精細画像の撮影を終えた。本調査は来年度以降も継続予定である。調査はボストン美術館のアン・モース氏、フリーア・サックラー・ギャラリーのルイズ・コート氏、大手前大学の岡佳子氏、根津美術館の下村奈穂子氏と前崎研究員の4名で行った。モース氏、コート氏からは、アメリカ人の日本旅行記に描かれた京焼に関する情報をご提供いただいた。

8月26日には、マサチューセッツ州セーラムのピーボディ・エセックス美術館で日本陶磁器関連の作品・資料調査を行った。同館所蔵の幸野楳嶺筆《清水六兵衛家工房絵図》(1882年)は、エドワード・モースからの依頼で幸野楳嶺(1844-1895)が描いた、三代清水六兵衛(1822-1883)の時代の工房の絵図である。きわめて詳細に描き込まれており、陶芸の製作工程や、窯詰めの様子、当主らしき人物が工房を見渡している様子などを確認できた。本図を描いた幸野楳嶺は本学の創設者の一人であり、モースと楳嶺、三代六兵衛との関係をあらわす貴重な資料と言える。この他にも明治期に撮影された陶磁器工房の古写真7点も確認し、絵図と古写真は高画質デジタル撮影を行った。

8月29日には、米国クリーブランドで明治期の京焼に関する貴重資料の撮影を行った。ニューヨークで1898年1月22日に発行された雑誌 Harper's Weeklyには、「The Porcelain-Artists of Japan」という記事が掲載されている。ここには、有名なワシントンDCの桜の植樹に尽力した人物として知られるエリザ・シドモア(Eliza Ruhamah Scidmore: 1856-1928)が、佐賀、岐阜、京都、横浜の著名な陶芸家の工房を訪ねた時の様子を詳細に記している。京焼では、皇室技芸員として国内外で名を知られた京焼陶工三代清風与平が写真入りで紹介されていた。米国クリーブランドの個人コレクターが所蔵している貴重な同誌の撮影を終え、内容については翻刻・翻訳し、現在構築を進めているデータベース上で公開予定である。

本年の研究はアメリカ調査が中心となった。来年度はこの2年間で蓄積した資料の翻刻・翻訳を進め、京焼海外文献データベースの公開を目標としている。

前崎 信也(芸術資源研究センター非常勤研究員)